

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名 児童デイサービス・ボラリス

公表日 令和 8 年 2 月 14 日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		基準を満たしており、一人ひとりが動きやすい空間が整えられている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		毎月 職員配置の確認、加算確認表に基づき実施できるか確認作業を実施している。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		玄関などに段差はなく、トイレ内には手すりを設置しています。また、スケジュール提示にはホワイトボードなどを用い、視覚的なサポートを強化しています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		車いす対応トイレを設置しています。作業訓練室などの清掃・消毒は毎日徹底して行っています。さらに、長期休暇時など長時間対応が必要な場合は、トイレ清掃を1日2回実施しています。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		建物内に多数の部屋があり、面談（相談、カウンセリング）やクールダウンできる場所が確保されている。	
業務 改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		社内研修や責任者研修を定期的に行っています。さらに、スキルに応じた学習内容の工夫を行い、研修の質を高めています。	PDCAの回し方など、さらに最適化していく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		評価結果に基づき、責任者会議の後に従業者へ周知を行っています	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		ケース会議などを通じて話し合う機会を定期的に行っています。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	外部による第三者評価が現状では実施できていないため、今後の課題として認識しています。	外部による第三者評価が現状では実施できていないため、今後の課題として認識しています。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		月に1回ペースにて職員対象の研修会を実施している。その他必要に学習会を開催している。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		オンライン（HUG）を活用し、過去の活動内容や今後のスケジュールを保護者様が分かりやすく確認できるよう公開しています。利用毎に保護者が確認できる体制が整備されている。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		アセスメントの見直しと作成を6か月ごとに行っています。作成時には保護者にご来所いただき、45～60分程度の面談を実施しています。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		サービス担当者会議を通じて、日常的に児童と関わり、状況を把握している支援者の考えを取り入れながら作成しています。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		支援計画はオンラインアプリ（HUG）を利用し、即時に確認できます。また、毎日の活動記録に個別支援計画の進捗状況を記録できるため、支援内容を照らし合わせながら活動を進めることが可能です。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		事業所独自のケース記録を作成し、定期的な内容の検討やモニタリングを行っています	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		支援計画を作成する際は、本人支援に偏らず、家族支援や地域支援にも着目しながら導入しています。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		日案に基づき、作成者、職員、チームで意見交換実施できている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		集団活動については、児童の通所状況に合わせて内容を柔軟に変更・工夫しています。学習、仕事、体遊び、SST（ソーシャルスキルトレーニング）など、さまざまなプログラムを実施しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		日案に個別支援計画を記載し、職員が随時確認・把握できるよう室内にも掲示しています。確実な実行を意識付けるため、学習など個別対応が必要な時間や場所を明記し、運用に工夫を加えています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		全職員が揃い次第、朝礼を実施し、前日の情報や当日の予定、想定される事案について情報共有を行っています。出勤していない職員もWEBを通じて引き継ぎ内容を確認できる体制を整えています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		業務終了後はオンラインアプリ（HUG）の業務日誌に記録し、オンライン上で様子を確認できる体制を整えています。改善点については翌日の朝礼やケース会議で共有し、工夫しながら対応を進めています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		業務終了後はオンラインアプリ（HUG）に業務日誌を入力し、オンライン上で様子を確認できるようになっている。改善点などは翌日朝礼時やケース会議の開催を工夫しながら行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		全児童のケース会議を月に1回実施し、ケース記録で情報を共有できるようにしています。個別支援計画の進捗状況や変更点を確認し、支援内容の見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7		基本の為全て実行する事が出来ている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		この事案が非常に重要であることを認識し、個別支援計画書作成時には必ず本人の思いを確認しています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		サービス担当者会議では、管理者や児童発達支援管理責任者だけでなく、児童の日常行動をよく把握している職員を選定し、参加する工夫をしています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		障がい福祉事業所との連携体制は構築できていますが、保健機関や医師との連携がまだ不十分であると感じています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		下校時間に相違が生じないよう、各学校の行事情報をホームページや保護者様のご協力を通じて把握し、オンラインアプリ（HUG）にて行き帰りの時間を保護者様が簡単に確認できるよう工夫しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1	保護者様とのアセスメントは実施していますが、関係機関への訪問が不足しているため、今後の課題として改善に取り組んでいます。	現在、近隣の児童発達支援事業所と相互交流を図っているが、その頻度や対象事業所を増やす。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		卒業時には保護者様とともにサポートブックを作成し、お渡ししています。卒業後も様子を確認し、必要に応じて見学の機会を設けています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1	現状取り組めていない。	全スタッフが窓口となれるようにしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	児童クラブや児童館との交流はありませんが、学生ボランティアの活動を通じて障がい児童への理解を深めてもらう取り組みを実施しています。今年度は、地域の人達に開放する緑日を児童の取り組みとして行った。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		7	現状取り組めていない。	参加することへの利点を確認していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		日々の活動記録はオンラインアプリ（HUG）を通じて配信し、帰りの送迎時に活動内容を具体的に説明できる体制を整えています。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		研修会などの案内を定期的に配信し、保護者様が研修に参加しやすいよう情報提供をしています。		

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時には契約書および重要事項説明書を順番に読み上げながら説明し、疑問点がないか必ず確認を行っています。契約書および重要事項説明書はルビ対応を施し、わかりやすくしています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		支援計画作成時には、保護者様の思いを最初に書面で伺い、その後の面談で再度確認を行っています。また、利用児童にも一人ひとり確認を行い、発信が難しい児童には視覚的な提示を活用し、選択しやすい環境を整えています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		個別支援計画書は6か月に1回作成しています。アセスメントを行い、担当者会議を経て計画書を作成した後、説明・確認・サインをいただき、家族様用の控えを印刷して配布しています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		学校やデイサービス利用への拒否、学校とのトラブル、生活の中での困りごとが発生した場合、事案ごとに口頭での助言、電話、面談等を必ず実施している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	5	2	例年は保護者参加の登山などの取り組みを実施しております。	2025年度は開催する事が出来なかった。来年度の課題として工夫して行く。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情が発生した場合は記録を作成し、事業所内で共有→責任者が法人の責任者会議にかけ、対応方法や改善点について会議出来るようにしている。なお発生時には迅速に対応出来るようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		活動内容や研修会、障がい児童に関する情報を定期的に発信する事が出来ている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		年度開始時（4月から5月）に毎年、個人情報確認書（当社独自）を確認いただき、サインをいただいている。SNSや連絡ノート写真の掲載の有無等プライバシーが守られるように職員一度周知できている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		保護者→口頭のみに関わらず、書面やURL等具体的に情報が伝達されるように配慮している。状況によりルビ対応を実施 子ども→タブレットや筆記用具、カード等様々なツールを使用し配慮を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	夏祭り等を開催し、地域の方との交流を深める取り組みを実施している。今後定期的な開催予定。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	各マニュアルの作成は完了しているが、保護者様への周知が不足していた。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCPの作成を行い毎月15日（土日祝除く）に災害に対する訓練を職員、児童参加の元実施している。保護者様は連絡手段の訓練を実施する事が出来ている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		服薬状況を把握を行い、支援者はオンライン上で確認できるほか、デイサービスで服薬が必要な場合は服薬方法に誤りが発生しないように医師から処方された薬のみ対応している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		一部、医療的な問題ではない内容にて保護者様の指示による対応となっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画に基づいて支援を行い、定期的な研修や避難訓練を実施し、職員間で情報を共有し、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに努めている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		安全計画に基づく取組内容については、保護者への説明や連絡帳を通じて随時周知。緊急時の対応や避難訓練の実施状況なども共有し、家庭との連携を図りながら子どもの安全確保に努めている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットが発生した際には速やかに報告書を作成し、当日、翌日には情報共有、再発防止についての会議を開催する事が出来ている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		法人内で特に意識している研修の為年に2～3回程開催する事が出来ている。	

54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		事業所にてどのような場面で必要であるか議論したうえで保護者様に書面にてご説明、同意を得ている。	
----	---	---	--	---	--